



ネイチャーセンターだより 2・3月号

イスカ *Loxia curvirostra*



この時期、春国岱のアカエゾマツ・トドマツの森で、マツボックリがたくさん落ちていたら、そこは「イスカ」が暮らしている場所かもしれません。クチバシの先端が上下に食い違って重なる小鳥「イスカ」です。

固いマツボックリをクチバシでこじあけて、種を食べています。生まれた時は普通のクチバシをしているのに、一人でエサを十分採れる頃になると、次第にクチバシが食い違ってくるのです。マツをうまく食べる為に、体が変わっていくのですね。

西洋では、キリストがはりつけられた十字架の釘を抜こうとしてこのようなクチバシになったと言われ、人を病害から守る幸運の鳥とされています。いつも見られるわけではなく、見つけるのは難しいかもしれませんが、春国岱の森でこの鳥を探してみましょう！きっと幸せな気分になれるですよ！！(K)

1月のイベント報告

1月23日「ワシワシ カラケラ ウォッチング」を行いました！

カラ類と呼ばれる小鳥のシジュウカラ・ハシブトガラ、ケラ類と呼ばれるキツツキのアカゲラ・コゲラ、そして風蓮湖の氷上に集まるオオワシ・オジロワシを見る観察会を実施しました。特に、結氷した風蓮湖の上を歩き、氷上で氷下待ち網漁をする漁師さんと、オオワシ達のバランスの取れた距離感を目にしたことで、参加者の皆さんは、人と自然が共存する風蓮湖の姿に興味を深めていたようでした。

当日、ボランティアグループ「スंक」のメンバーがサポートして下さり、終始盛り上げてくれ、最後はスंकメンバーがデザインした「氷下待ち網漁とオオワシ」のポストカードを参加者に配りました。知り合いや親しい人たちにこの日の思い出をこのカードで伝えて頂ければ、こんなに素敵なことはないって思いました。

ネイチャーセンターと一緒に活動して下さるスंकメンバーを、いつでも募集しています。ご興味ある方は、お電話等でお問合せ下さい。(K)

ネイチャーセンター
電話 0153-25-3047



現在、4月以降のイベントを検討中です。来年度も楽しいイベントを行なっていきたいと思います！！

自然予報

2・3月に見られそうな鳥など

== 2月 ==

<鳥> オオワシ・オジロワシの個体数がピークになります。風蓮湖ではあわせて約 1,000 羽位になります。



夕方エゾシカの群れが春国岱の森から海岸へ出てくるようになり、50 頭前後の群れが姿を見せることもあります。春国岱の前浜に流氷が接岸します。

== 3月 ==

<鳥> オオワシ・オジロワシの飛来数が少しずつ減り始めます。

本州方面で冬を越したオオハクチョウ・カモ類が飛来し始めます。

タンチョウが子育てのために湿原に戻ってくるようになり。

ハシブトガラ、ミソサザイなどの小鳥達がさえずり始めます。



おもしろ自然コーナー

足輪でわかるタンチョウの経歴

標識タンチョウ『T77』(1995年温根沼生まれオス)は、2001年には1羽の子連れでした。子どもには『83V』の標識がつけられていました(また娘)。初めのうち父親べったりだった83Vは、やがて1羽でふらふら遊び歩くようになりました。時にはすわりこんでいる他のツルをついたり、と相当おてんばです。父親のT77の子ども時代にそっくり! 気ままな娘に手を焼いたか、家族と離れて1羽ぽっとなるT77の姿がよく観察されていました。

そしてこの冬、T77と45P(またまた娘)の家族は、鶴居村のタンチョウサンクチュアリの給餌場にいます。なんと45Pもふらふら1羽で気ままに過ごしているとか。

タンチョウはきれいなだけでなく個性も豊かです。(終わり)(O)



海・森・湿原からの手紙

氷下待ち網漁

冬が深まり、湖の水面は氷で覆われるようになり、氷上ではコマイなどを獲る氷下待ち漁がはじまるとともに、オオワシが見られるようになりました。風蓮湖・温根沼で海産物の販売などしている、根室湾中部漁業協同組合(以下 湾中)の番匠さんに、氷下待ち網漁等について話を聞いてきました。

昭和47年1月は、コマイの当たり年だった。コマイが湖にあふれ、その大群の中に竿を立てても竿が倒れいほどすごい群れが来ていたんだ。その時は、コマイの運搬のために、根室にある大型トラックのほとんどが集まったんだ。ここ数年、コマイの漁獲高は、年間100~200トンの間で推移しているのに、この時は1月だけで約4,000トンも獲れたんだからホントすごかったよ。海が嵐で、大シケになると、まれにコマイの大群が風蓮湖に入ってくるんだ。この時もそうだったんだね。

コマイを獲っている待ち網漁は、冬に行なう氷下待ち網漁が有名だけれど、夏でも待ち網漁は行なっている。待ち網漁は、網を何かに固定しなくちゃいけない。夏は、碇のようなアンカーと呼ばれる重りや、長い竿を使って固定し、冬は氷を使って固定しているんだ。待ち網漁で獲れるのは、コマイ、チカ、ワカサギ、時々ニシンもあるね。

このコマイを食べたことはあるかな? とってもおいしいんだよ。風蓮湖や温根沼のように淡水と海水が少し混ざっている水を、コマイが吸い込むと、体の皮が黄色っぽくなるんだ。

そういうコマイは乾燥すると甘みがでておいしい。また、干すのもいいけれど一番は、すごく寒い日にとれたてのコマイを外でカチンカチンに凍らせて、削って食べるルイベ。削るのは大変だったけれど、これが本当においしい!

今、風蓮湖周辺にはオオワシが集まってきているけれど、30年位前は、オオワシなんてめったに見かけなかった。周辺に自然のエサが減ったのも一つの要因かもしれないね。彼らは今、漁師たちが残す小さいカワガレイやギンポ、カジカなどを食べている。漁師が必要としないものを彼らが食べるというスタイルで、彼らが漁師に危害を加えることもなく、漁師も彼らに危害を加えないバランスのとれた距離感をもっている。今のバランスがとれる限り、人とオオワシ達が風蓮湖を舞台にうまく一緒に暮らしていくことができると思う。

(取材・まとめ: K)



しぜんじょうほうばん 自然情報板

オオハクチョウ・カモ類



冬、本州方面で過ごしていたオオハクチョウや、ヒドリガモ、オナガガモなどのカモ類が、3月上旬から飛来するようになります。鳥達の春の渡りの始まりです。

オホーツク海



ゴマフアザラシ

氷上にゴマフアザラシが100頭前後見られることがあります。流氷が接岸する頃になると、出産の為、沖の方に姿を消してしまいます。



休憩舎

オオワシ・オジロワシ

オオワシ・オジロワシの飛来数は2月がピークになります。周辺をあわせて1,000羽を越えることも。雄雄しく樹上にとまる姿、氷上で休む姿。2月下旬になると、少しずつ数が減っていきます。見られる時期に是非どうぞ！



足跡

雪の降った次の日に林を歩いてみると、動物達のつけたたてホヤホヤの足跡を見つけることができます。エゾシカ、キタキツネ、ユキウサギ、そしてエゾリス。冬は動物の暮らしの跡がわかる季節ですね。



= お知らせ =

観察路の一部が、氷に覆われた場所があります、滑りやすいので十分ご注意ください。

非常に風が冷たい季節となりました。観察路を歩かれる際は、帽子・手袋などの防寒具を用意し防寒に努め楽しい時間をお過ごし下さい。



<1月15日~2月1日に春国岱周辺で確認された鳥>

オナガガモ	ユリカモ	キクイタダキ
スズガモ	セグロカモ	ハシブトガラ
ホオジロガモ	オオセグロカモ	ヒガラ
ウミアイサ	ワシカモ	シジュウカラ
クマガモ	シロカモ	ゴジュウカラ
トビ	ウミネコ	ユキホオジロ
オジロワシ	コムシク	ハキマシコ
オオワシ	アカゲラ	スズメ
オオタカ	オオアカゲラ	ハシホソガラス
ノスリ	コゲラ	ハシブトガラス
タンチョウ	ヒヨドリ	
ハマシギ	ミソサザイ	



<1月31日のワシ類飛来数調査結果>

風蓮湖：オオワシ 277羽
オジロワシ 101羽
合計 454羽
(不明ワシ 76羽含む)



ねいちゃーせんたー日記

「オオワシってキレイなんですね。」1月の中旬頃、お客様が、センターに入ってくるなりそう声をかけて下さった。「以前、夏にこのセンターへ来たとき、冬のオオワシなどの話を聞いたんです。その時、絶対もう一度、冬に来てみたいって思ってたんです。今回の旅の目的地はここ。来てみて、やっぱり良かったって思いました。あんなにたくさんのオオワシが見られるなんて、信じられなかった。」

話を聞いてみると、そのお客様は東京からいらっしゃって、数年間ずっと、冬の風蓮湖・春国岱に来てみたいと思っていたそうです。東京からすれば、雪のある景色、凍ってしまう湖や川など、日常とは全く別の世界が広がっています。その景色に溶け込む、オオワシなどの生き物たちが、お客様の心に抱かせたものは何だったのかなって思うと、なんだかワクワクしてしまいました。

多くの人に、風蓮湖・春国岱の四季を見て頂きたいと改めて思いました。(K)



ボランティアグループ「スंक」の活動

「スंक」って何？

「スंक」は春国岱ネイチャーセンターの活動を支援、発展させるために活動しているボランティアグループです。これまでセンターの展示物作成や、コンサートの実施などを行ない、今は紙芝居の作成などを行なっています。メンバーには、根室でずっと暮らしてきた方から転勤でいらした方まで、老若男女様々な方がいます。一緒にセンターを盛り上げていきませんか？メンバーは随時募集しています！



2月の「スंक」定例ミーティング

【日時】 2月12日(土) 10:00～

森の情報収集調査と、紙芝居作りを進めます。

「スंक」の活動にご興味のある方、とりあえずミーティングを見てみたいという方など、お気軽にネイチャーセンターまでご連絡ください。

「ネイチャーセンターだより」のメール配信のお願い

通信誌の郵送料削減と省資源を目指し、一部ネイチャーセンターだよりをメールにて(ファイル形式はPDFファイル)配信しています。ご協力いただける方にはメールでの配信に切り換えさせていただきたいと思っております。郵送による発送をご希望の方には今後とも郵送にて配信いたします。

ご希望される方は下記メールアドレスまで、ご自身のアドレスをお知らせ下さい。ご協力お願い申し上げます。

連絡先: nemu_nc@marimo.or.jp

10人以上
集まれば!

春国岱ネイチャーセンターの団体向けプログラム

春国岱・自然学習林での野外での解説 (1～2時間 / 10～20名)

スライド上映 + 春国岱の自然のお話 (25分 / 10～45名)

自然学習林のクイズラリー (1時間 / 10～50名)

タンチョウのヒミツに迫るタンチョウゲーム (0.5～2時間 / 10～20名)

その他、ご希望に応じてプログラムをアレンジすることもできますのでご相談ください。

利用には申込みが必要です。詳細はネイチャーセンター(25-3047)までお問い合わせください。

などの野外ガイドは、学校団体・町内会等に限定させていただきます。



春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンター

〒086-0074 根室市東梅 103 番地
TEL 0153-25-3047 FAX 0153-25-8570

・入館無料 (双眼鏡無料貸し出しあり)

・開館時間 4～9月 9:00～17:00

10～3月 9:00～16:30

・ホームページ

http://www.marimo.or.jp/nemu_nc/workn/index.html

・e-mail : nemu_nc@marimo.or.jp

2005.2 発行

2・3月の休館日

<2月:2・9・14・16・23日>

<3月:2・9・16・22・23・30日>

休館日: ・水曜日(祝日の場合、その翌々日)

・祝日の翌日(土・日曜は除きます)

